

平成 18 年度第 1 回 EXTEND2005 リスクコミュニケーション推進 検討会 議事要旨

日時：平成 18 年 8 月 21 日（月曜日） 10：00～12：00

場所：（財）環境情報普及センター会議室

主席委員：北野大（座長）、有田芳子、小黑一三、川島久徳、村田幸雄、脇森裕夫

事務局：上家環境安全課長他

議題：

- 1．化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて
- 2．国際シンポジウムについて
- 3．EXTEND 野生生物観察隊について
- 4．その他

議事要旨

以下の内容について、資料に沿って事務局より説明・報告を行った後、質疑応答を行った。

- (1) 17 年度のホームページの運用の実績と 18 年度直近までの更新の報告、ホームページの改善案について報告を行った。

・リンクにより、相互に補完的にして充実させていく際のリンク先を選ぶ基準を明確にしていきたい。

（環境省）基本的には、政府内、あるいは地方公共団体分については、そのままリンクで飛べるようにしたい。

（環境省）学術団体はある程度法人格を持っている団体を 1 つの目安にする。

（座長）法人格を持っていることという前提にしておいて、それ以外についてはひとつずつ判断したい。

・再閲覧の興味を持続させるために、ページの最初のほうに、内分泌かく乱問題に関する何かニュース的なものを、その月単位でも載せてみてはどうか。

（環境省）割とすぐに対応できると思う。

- (2) 第 8 回国際シンポジウムの報告の後、第 9 回国際シンポジウムの計画について報告を行った。

・リスク管理の専門家で、行政以外の立場で意見をしていただけの人が入れば、バランス

が取れたという印象がある。

(環境省) リスク管理自体が非常に大きなテーマなので、来年はぜひそこを中心にやりたいと思っているが、今年はそのまで手を広げられないという部分もあり、できるだけ、その先のリスク管理のことにも触れつつということにしたい。

- ・テーマは非常に包括的なとらえ方で、人健康もあれば、生態もある。何をばく露対象とするか。ばく露されるものにするのか。

(環境省) 環境リスクの定義として、人への健康リスクと、それから生態系へのリスクの両方が対象であるということをはっきり明示できると思う。

(3) 平成 18 年度身近な野生生物の観察事業～こどもエコクラブを対象とした「ExTEND 野生生物観察隊」～について、報告を行った。

- ・自然観察こそ長期的にやるべきで、野生生物を通して自然を見ていくというのが一番いい方法だと思う。

(4) 参考資料に沿って、ExTEND2005 の中長期的な取組の素案についての報告を行った。

- ・内分泌かく乱化学物質だけに限定したり、特殊なものとして考えたりするのではなくて、化学物質全体の管理の中の一環としてとらえていくということだと思う。

(環境省) 独立したものではなくて、一要素であるということをはっきり位置付けた上で、データあるいはリスクコミュニケーション、いろんな展開の仕方は、この内分泌かく乱作用ということで、幾つか柱を立てて整理できた部分を、化学物質管理全体に応用していきたい。

- ・マスコミの批判的な考え方には、こういう動きを理解していない面があるのではないか。

(環境省) 環境省としての発信の機会をつくりたい。

- ・まさにこのリスクコミュニケーションという観点から、環境ホルモン問題はもう懸念がなくなったのではなくて、全体的な枠組みの中でとらえてやるんだということ、とにかく丁寧に説明していただきたい。
- ・一般の方は、新聞とかテレビを通じて情報を入手し、判断していますので、マスコミをどう活用していくかという点が問われると思う。

以上